

佳作

ふる切手が人のやくに立つ

神奈川県 湘南白百合学園小学校二年 荻原 凜

わたしは、おともだちやおばあちゃんによく手紙を出します。その時、わたしは手紙になにも考えずに切手をはっていました。

しかし、一年生の一学きに「ふる切手かかり」になって、ふる切手がだれかのやくに立っていることを知ってから、切手を大切にしています。ゆうびん屋さんからふうとうをもらうと、切手を切りとり、ふる切手としてあつめています。ふる切手あつめは、おばあちゃんにもきょうカしてもらっています。

わたしは、そのふる切手をふくろに入れて、まい週月曜日に学校へもって行きます。そのふる切手は、JOC Sといういりようきょうカだん体にあつめられ、切手コレクターさんにうり、そのお金はまずしていくにの人のためにつかわれます。わたしは、そのかつどうをきょう年のなつ休みにJOC Sにちよくせ

つうかがって、はじめて知りました。

アジアやアフリカにおいしゃさんやかんごしさんをおくったり、おいしゃさんやかんごしさんになるためにひつようなべんきょうをするためのお金をおくり、えい正のべんきょうを教えるお金につかいます。このお話を聞いてわたしは、「おいしゃさんやかんごしさんがいないくがあるんだあ」とおどろきました。そしてアジアやアフリカというところにおいところ、おいしゃさんやかんごしさんをおくることがすごいなあと思いました。

なぜなら、まずしいくにはたらく日本人は、まぜしいくにのみんなのいのちをすくうからです。それだけでなく、JOC Sではたらいっている人たちは「みんなで生きる」せかいをみざして日本人だけではなく、せかい中の人がけんこうにくらせるようにかつどうしてすごいいました。

わたしもこれから自分のまわりの人だけでなく、「みんなで生きる」ということを考えて、せかい中の人がけんこうでいることをおいのりして、じ分て出さることをしていききたいと思ひます。ふる切手を今よりもせつきよくてきにあつめて、すこしでもせかい中の人たちのたすけになるようにがんばりたいです。